



社会福祉法人つるかわ学園
つるかわ学園を支える会
☎195-0051
東京都町田市真光寺町
186番地
T E L (042) 735-2220
F A X (042) 736-6374
HP:tsurukawa-gakuen.com

**創立五十年記念祝典
その頃と、それ以前を
知らない人たちで…**

社会福祉法人つるかわ学園
理事長 廣本 肇

社会福祉法人つるかわ学園の創立五十年記念祝典をしたのは平成二十二年十一月十三日。時間が経つのは早いもので、もう四年が過ぎています。今、まさに次世代を背負って継ぐ人と、そのチーム福祉を築いていく人材の育成をメインテーマとして切磋琢磨、努力しているところです。

六月、ふたつの法人施設の創立五十周年記念に呼ばれ参加しました。ひとつは十八日、『社会福祉法人桐友学園』。そして、もうひとつは『社会福祉法人北海道光生会美唄学園』。このふたつの法人の五十周年記念です。記念の祝辞を述べながらそして終わって席に着き思い知らされたのは、それぞれの施設法人での知り合いは二、三人の理事長あるいは施設長だけといつことなのです。

一緒に施設づくりで苦心惨憺、壮絶な年月格闘した若者やご家族の方々は遠く遙かに、お亡くなりになっていて、そのお顔がなかったことですので、ひとしお寂寥とした思いに晒されました。創設の時、感激しあった『われら人間家族』の仲間たちにはお会い出来ない祝典でした。

若い私は施設づくりに奔走していました。多分に無茶も言い、強引に思考錯誤していて、今にして思えばあのバイタリテイの全てが青春の墓標に姿を消してしまっただかのように後を継いだ、あの頃を知らない人たちの拍手と賛辞こそあれど、親しく会い、頭を下げて謝らなければならぬ数々を胸に秘め、ただ唸然とする祝賀会の席にいました。

桐友学園は、北海道苫小牧にある緑星の里元理事長の森岡永吾、美唄学園の元理事長菊地耀一と私が中心になり多くのご家族、そしてボランティアの動員を得て、最初、七十二名定員の知的障害児入所型施設を昭和三十九年に創立させ、私が初代施設長になったところから。三人は、同じ苫小牧高校(現苫東高)の同級生でした。ふたりは、その後、ふるさとの苫小牧に帰り、ひとりには「美唄学園」を創立させ、森岡

は苫小牧に緑星の里という法人をつくり各種施設を建設し開設しました。懐かしい思い出はなにもかも順調だったわけではなく、それぞれの礎を踏みながら五十年という歴史を克服していきました。私の哲学は、桐友学園時代の遅しさに培われ、武蔵野雲御殿場の富士学園/東京苑での思い出に、ひとに優しくあれと学び知り、今、つるかわ学園において、新しくあれと改革・革新の時代を進歩変化を図り、後世に繋ごうとしているのです。体験的施設論の基をなすものは「障害を問わない。年齢を問わない」このふたつは勇気と情熱に支えられここまで歩いてきました。そう言いはじめたのは、桐友学園を創設するときからですが、このふたつは揺るぎないものなのです。

「障害の程度を問わない」という言葉は、今にして思えば、そんなことを言ったこととしたい、たいした度胸のあることでした。年齢を問わないというのは、ここに来て言えるのですが、こんなに障害がある人たちが長生きするなんて予想していなかったことも含め、高齢になるがゆえの認知症の問題が利用者のみならず、その子の親に及び新しく取り組む姿勢が用意される時代を体験していくことになるのです。新しくあれ、これがここに存在している、それに参加する者こそチーム福祉のメンバーリストになっていくのです。私のこだわりは「親子後」を放棄しないことなのです。

だから、その三点セットを心得れば、一緒にの土壌で育まれて行くでしょう。若い頃、研修でこんな言葉を教えられました。

①「やる気」
好き嫌いで判断せず、どんなことでも意欲的に取り組む。

②「本気」
手を抜いたり、まあまあではなく全力でやる。

③「元気」
体調を管理し、いつも明るく前向きに。

④「根気」
結果が出なくても、諦めずにコツコツと。

⑤「勇気」
困難から逃げず積極的にチャレンジを。

職員と言わず、より多くの皆さんにあてはまる方法と手段と想うのです。五十年記念の話に戻りますが、創立当時ご苦労された親御さんに会えない残念さを体験し「そりゃそっだ」それなりの年月が経てば、それはあたりまえたることと自分をなため「美唄学園」では少し遠観できました。だから、そんなわけで、創設期を知らない市の方は実感として分ならず、代読の挨拶をしているのを見て、これも五十年記念の催しで五十年前を知らない人たちが「これから」を指して、今の人たちがお披露目してくれていると、ひとつのパロディとして嬉しく思いました。



ダイエーユニオン活動

つるかわ学園 支援スタッフ ボランティア委員 大熊 祐二



七月十六日につるかわ学園でダイエーユニオン活動が行われました。この行事はダイエーユニオンさんの社会奉仕活動の一環として十八年前から長く続いているものです。ダイエーユニオン活動が始まった頃は、

当たり前の話ですが、利用者の皆さんも今より若く活発でしたので、園外へ出て梨狩りやバーベキュー、こどもの国への遠足などを行ってきましたが、ここ数年は利用者さんの状態の変化などから、主に学園内での活動を行っています。

ダイエーユニオン活動当日は、つるかわ学園に初めて来られた方、毎年のようにこの活動に参加されている方、若い方、年配の方など総勢二十八名ものダイエーユニオンのみなさんが来園されました。午前中は音楽活動として、一階地域交流室で利用者さんとダイエーユニオンの方々と一緒に輪になってジェンカを踊ったり、「踊るポンポコリン」の曲に合わせて体を動かしたりして交流を深めました。初めは照れ臭そうにされていた利用者さん、ダイエーユニオンの方々も、徐々に表情がほぐれてきたように感じました。昼食はダイエーユニオンさんが、利用者の分だけでなく我々支援スタッフの

分まで昼食を用意して頂き、フロアごとに利用者さんとダイエーユニオンの方々と一緒に食事をしてもらいました。

昼食後は、各フロアに分かれてうちわ作りをしました。暑い夏を乗り切るため、またダイエー活動を通して何か形になる物を残したいと、ダイエーユニオンさんとボランティア委員の担当で計画しました。うちの用紙にそれぞれが思い思いのイラストなどを描き、うちの骨組みに張り付けていきました。ダイエー活動で利用者の皆さんが作成したうちわは、十一月に開催予定の「つるかわ学園 ふれあい祭り」で展示スペースを設ける予定でいます。世界に一つだけしかないうちわを作るのと並行して、食堂でパン工房もくもくってんで焼いてもらったチョコレトパンを使ってパン取り競争も行いました。

パン取りを終えると、缶コーヒールと一緒に皆さん笑顔で召し上がりました。



うちわ作り
皆さん笑顔で召し上がりました。

ていました。午後に行われたうちわ作りの材料、パン取り競争のパン、缶コーヒールは全てダイエーユニオンさんが利用者の皆さんの為に用意してくれました。



パン取り競争

最後に一階地域交流室に全員が集まってお別れ会と記念撮影を行いました。もうすぐ二十年になるろうという外部の方々と交流の機会を今年も利用者さんに楽しんでもらうことが出来たかと思えます。参加されたダイエーユニオンの方々も、「今日は楽しかったです。」「また来年も来ますので、よろしく願います。」「といった感想を話して帰って行かれました。今後二十一年、三十年と末永く交流を続けて行けるようにしっかりと受け入れ態勢を整えていきたいと思えます。



まちだミュージアムフェスティバル

つるかわ学園 支援スタッフ 福島 夏樹

七月四日(金)に町田市民ホールでまちだミュージックフェスティバル(以降MMF)が開催されました。学園は十三年から参加しています。

町田市内の通所・入所支援施設が集まりました。会場には計十二施設の利用者・職員・ご家族が来場し、市民ホールはほぼ満席となりました。ステージでは各施設が劇やダンスを披露しました。ディズニ映画の物語を彷彿させるような衣装を奏しそつに着る利用者もいたり、他施設の音楽に合わせて踊る方がいたり、会場が大いに盛り上がりました。

体験ボランティア講座

つるかわ学園 支援スタッフ 村岡 由華

八月五日(火)に体験ボランティア講座が行われました。ボランティアの育成・施設の受け入れの力量アップを目標に毎年開催されています。一昨年まで二日間の開催でしたが、参加者への負担が大きいため、参加しにくい等の意見があり一日の開催になりました。募集締め切り間近まで参加者が集まらず当日が心配されましたが、近隣の学校や地域の町内会の御協力のもと、十一名の参加者を集うことができました。また、当学園で働いているパート職員

方々も参加されました。講座の内容としては、町田ボランティアセンターの職員を講師に招き、ボランティアを行うにあたっての心構えや役割について講義を受けたり、利用者さんと一緒にレクリエーションを行ったり、障がい者福祉の原点でもあるビデオを観てもらいました。福祉関係の学生の参加が多く、どの方も積極的な姿勢で取り組まれていました。将来、福祉関係の仕事に就かれた際には、この体験を生かして貰えればと思います。

学園は、はっぴを着て「よさこい」を踊りました。他施設利用者も一緒に踊り、表彰では「ノリノリ賞」を頂きました。他施設利用者と学園利用者が最後にハイタッチをされて帰る等、MMFを通じて他施設との交流を深める事が出来ました。

今回、MMFの実行委員長に学園から池田壮一郎さんが選任され、MMFまでの会議進行から始まり、表彰式で賞を渡しました。ご家族も来場した大観衆の中、堂々と実行委員長役を全うしました。

祭 ぞーねぞーねぞーねお祭りだー

つるかわ学園 生活介護主任 外川 珠枝

太鼓の音と共に暑い暑い夏が来ました。七月十九日(土)真光寺町内会の盆踊り大会、七月二十六日(土)・二十七日(日)鶴川三団地・商店会合同夏祭りの地域行事に参加いたしました。

真光寺町内会盆踊り大会には、パ工房もくもくてんが出店しスタッフと利用者が販売に出掛け盆踊りを楽しみながら販売をさせていただきました。つるかわ学園にも盆踊りの楽しい音が響き、利用者さんもわくわくし始め、いてもたってもいられず開始前から会場を訪れ、町内会の皆様の温かいご配慮で一足早く出店での飲食を楽しみました。



鶴川三団地・商店会合同夏祭りに、約四十店舗のお店が出店されつるかわ学園もその一つです。今まで利用者さんが作った陶芸品や工芸品

を展示販売いたしました。利用者もご自身が作った作品が目の前で売れて行くのを見て益々創作意欲が湧き、今度はどんな物を作ろうか、どんな色にしようかなどと思い描いている様です。

この二日間、たくさんの利用者さんが祭りを楽しみ、笑顔がふふれ、学園の販売テントの中はピアガーデンのように賑わっていました。また、団地の商店街には利用者さんが働かせていただいているお店や学園の利用者の食材を届けて頂いているお店もあります。

地域の皆様に支えられこのような行事にも参加ができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今度はつるかわ学園発信の行事を行います。三十七年続いたバザーから趣向を変えた内容になります。十一月九日(日)「つるかわ学園ふれあいまつり2014」地域の皆様とより結び合えるような行事にしたいと思っています。おります。ぜひ、足を運びください。お待ちしております。



ソフト食導入に向けた取り組み

調理主任
長崎 喜代美

今まで、学園で提供している食事は、普通食、刻み食、極刻み食、ペー
スト食の四形態でしたが、今年六月
からソフト食を開始しました。
数年前から、普通食が、摂食機能に
合わないという方が増え、最初は、
一口大に刻み、またより細かく刻ん
で提供していました。
しかし、刻み食では誤嚥性の肺炎
を起こしてしまう方がでてきてしま
いペーフト食を提供するようになり
ました。ペーフト状の食事は、食べ
やすく、飲み込みやすくなるはなつたも
の、どんなに彩り良く盛り付けて
も、味付けが良くても、見た目のド
ロドロとした印象は強く、受け入れ
づらい食事です。そこで、ペーフト
食や極刻み食を食べている方に、ソ
フト食を提供することを検討しまし
た。見た目や食感が良くなり、硬さ
やまとまりのある食事は、咀嚼動作

を促す事にもなることから、導入に
取り組みました。
話し合いを重ね、ソフト食を実施し
ている施設を見学したりしました。
そして、実際にソフト食を作り、利
用者さんに試食して頂き、見た目や
咀嚼の動作の変化等を検討しました。
一気にソフト食に変える事は、困
難な事も多く、主菜の魚のメニュー
から始めました。一日一品からです
が、魚が固くて食べられなかった方
が、「たべやすい」「魚の形がかわい
い」「おいしい」と言って食べて頂
けるようになりまし
た。支援スタッフか
らも、「見た目にも美
味しそうで、普通食
と同じ味で、バリエ
ーションがあり、と
てもいい」と聞いて
います。
ご家族の方も、ペー
スト食からソフト食
に変わった事を喜ん
で頂いていると何っ
ています。私たち調
理スタッフにとって
ソフト食作りは、大
変なこともありませ
うが、形のあるソフト
食が提供できて良
かったと感じていま
す。少しずつですが、
品数を増やして、よ
り良いソフト食を目
指していければと思
います。



つるかわ学園を 支える会のご案内

「支える会」について

国家的財政困難と世情不安定
の中にあつて、施設も苦しい状
況に置かれています。私達は私
達なりに苦しさの中にあつても
福祉を支える者として努力を惜
しまず頑張っています。今一歩
の力の支えをこうした形で求める
のは本当に心苦しいのですが、市
民の皆様の小さな善意はやがて大
きな力を生む礎となる事をお約束
します。
どうか「つるかわ学園」を支え
る会にご入会し力を添えてくださ
いますようお願い申し上げます。

つるかわ学園
ホームページ
日常のようす、行事のお知
らせ等がご覧になれます
アドレスはこちら!!
HP: tsurukawa-gakuen.com



会費
「つるかわ学園を支える会」の会
費は、一口年額三千円ですが、ひ
とりで何口か入っていたらだこと
を歓迎、お願いしております。

会員の方々には、毎年三回発行
するつるかわ学園の機関誌「つる
かわ」をお送りし、学園の様子を
続けてご報告するとともに、この
人達の幸せを願う者同志としての
親交を深めます。

入会方法
入会してくださる方は、振込用
紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号
〇〇一〇一七一九四〇二九
加入者
社会福祉法人 つるかわ学園